

令和2年度臨時経営協議会 議事要旨

日時 令和2年7月13日（月）14時30分～16時10分
場所 事務棟第一会議室
出席者 穴沢学長，江頭理事，鈴木理事，近藤副学長，片桐委員
上林委員，栗田委員，佐藤委員，福田委員，舟本委員
欠席者 杉江委員
陪席者 福井理事，石橋監事，小嶋監事，小嶋事務局長

議事に先立ち，穴沢学長より各委員及び陪席者の紹介が行われた後，前回書面審議開催した令和2年度第1回経営協議会及び前々回開催の令和元年度第6回経営協議会議事要旨の確認が行われた。

議 題

1. 令和元事業年度財務諸表及び事業報告書並びに決算報告書（案）について

穴沢学長から，審議資料1に基づき，令和元事業年度財務諸表及び事業報告書並びに決算報告書（案）について諮られ，審議の結果，原案どおり承認された。

承認後，穴沢学長から，7月20日開催の役員会に附議する旨発言があった。

なお，委員からは，主として以下のような意見等があった。

- 資料5ページ<参考資料>の数値が，財務分析上の同グループ大学の平均値を下回っているものもあるが，この点について課題として認識しているのか。
 - 本学の財務状況はひっ迫しており，予算要求も厳しい状況が続いている。教員の研究費，外部資金獲得に引き続き注力していきたい。
 - 他の大学は複数学部を抱えている等の違いがある。本学は文系単科大学ということもあり，人件費比率が高くなってしまっているのがネックである。共同研究や科研費の獲得は上昇傾向にはある。
- 最近の大学のランキング等では小樽商大の名前がほとんど出てこない。知名度がかなり落ちているのではないか。魅力度を上げるには研究経費，教育経費等，集中的な取り組みをしなければ，平均的なままなのではないか。魅力を上げるチャンスとして経営統合があると思うが，コンサルティング会社にはそのような点でこそ力を借りるべきなのではないのか。また，経営協議会においても，3大学経営統合に関する討議を行うべきではないか。
- 資料5ページ<参考資料>について，令和元年度に数値が落ちているものがある。固有の理由はあるのか。また，経営統合を踏まえて，どの程度の比率を目標値とするのか。
 - 経営統合後も基本的には各大学としての数値となる。
 - 令和元年度の数値の低下の理由としては，たまたま令和元年度に大型の科研費が採れ

なかったということがある。継続的に大型の研究費を獲得できるほどの人材育成ができていないという現状がある。なお、教育経費については、ここに数値として現れない補助金などで行っているという事情がある。本学は、教育にはかなり力を入れて取り組んでいる。

→ 科研費については、個人で申請するケースがほとんどである。グループで申請するケースがまだ少ないので、戦略的な獲得も考えていきたい。

2. 令和3年度国立大学法人運営費交付金及び施設整備費概算要求（案）について

穴沢学長から、審議資料2に基づき、令和3年度国立大学法人運営費交付金及び施設整備費概算要求（案）について諮られ、審議の結果、原案どおり承認された。

承認後、穴沢学長から、7月20日開催の役員会に附議する旨発言があった。

なお、委員からは、主として以下のような意見等があった。

○ 新規要求事事項の教育研究組織整備（研究支援部門の強化）の詳細について教えていただきたい。

→ CGSができて、新たに研究を支援する部署ができた。前身がある組織には予算があり、人員がいたが、研究支援部門にはそれが無かった。今回の要求で、教員人件費を得て教員を採用したい。ただし、期間が1年間になるのでクロスアポイントメントで採用したいと考えている。地域研究をサポートできる人材を想定しており、新幹線の札幌延伸をうけて、北海道東北経済圏構想を進めていきたいと考えている。本学では、URA制度を有してはいるが、理事や教員が兼務している状況である。今後外部資金を獲得するためにもURAの活用も検討していきたい。URAのキャリアパスの問題もある。

○ 外部資金獲得について、中央省庁の審議会委員等として関わっていると、大型の研究資金等の情報が早期に入ってくることもあり有益である。また、他大学の例にあるような寄附講座の設置を目指すの良いのではないか。企業からは客員教員等として研究者を受け入れ、多額の資金も受け入れることとなるので、大学と企業との関係だけでなく、地域との信頼関係も築くことが可能である。

その他

穴沢学長から、次回の経営協議会については、令和2年9月28日（月）14時30分から開催する予定である旨、発言があった。なお、緊急の案件が生じた場合には、急遽、会議を招集させていただくことも想定されるので、その場合には、会議の開催日程を調整させていただきたい旨、併せて発言があった。

以上